

下仁田高等学校 学校評価一覧表② (平成30年度版)

(様式2)

羅 針 盤			達 成 度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒が80%以上である。	B	B	B	生徒が主体的に学習し、周りの者と協力し合う「学び合い学習」や「学び直し学習」をできる限り授業に取り入れ、継続的に授業改善に取り組んだ。	ウェブページ等で、生徒がいきいきと活動できるような行事の工夫が見られる。今後の学校の取り組みにも期待する。	今後も双方向型の言語活動の充実を生かしたわかりやすい授業の実践や生徒の実態にあった教育活動を行う。また、パフォーマンス評価を取り入れ、指導や評価に活かしたい。
		② 習熟度別や少人数制の授業形態に満足している生徒が80%以上である。	B	B	B	基本的な学習事項の習得、定着に向けて、1年次は、国語・数学・英語・理科において、2・3年次は、コース別の授業を実施し、基礎学力の向上に努めた。	少人数制は本校の特色の一つでもあり、希望する生徒・保護者も多い。貴重な取組なので維持してほしい。	引き続き、可能な限り習熟度別や少人数制の授業を強力に推進していく。
	2 地域と連携し、地域の教育力を活用していますか。	③ 「総合的な学習の時間」や「課題研究」、学年行事等に地域に密着した学習を取り入れ、その学習等に意欲的に取り組んだ生徒が70%以上である。	A	A	A	地域学習は行事として定着しているが、内容等見直しや改善を行いつつ、例年以上の成果を挙げることができた。生徒の取組状況は各学年ともに概ね良好であった。	地域に根ざした教育活動の実施はすばらしい。地域学習を通して得られる知識や経験を保護者にも十分理解が得られるように期待する。	地域学習に関連する行事は来年度以降も継続して実施する。内容の工夫・改善を進め、生徒が積極的な姿勢と気持ちで取り組めるよう事前・事後指導に力を入れる。
		④ 地域とふれあい、連携した事業を行い、諸活動に意欲的に参加した生徒が70%以上である。	B	B	B	前年度まで行った、地域との連携事業の課題を踏まえて、地域で必要とされる人材育成も主眼として新たな取組を実施した。地域に対しての活動を積極的に広げ、活動が周知できるよう取り組んだ。	すばらしい事業成果を上げたのに評価が低いのが残念だ。学校だけでなく家庭の協力を得ながらの実施に期待する。	特色ある授業や活動を推進するにあたり、地域との連携事業が本校の教育目標である、地域に役立つ人づくりとして、意味や意義のある活動であることなど各教科での指導も推進すること。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑤ 「学び直し学習」や「学び合い学習」を取り入れた授業がわかりやすいと考えている生徒が、80%以上である。	B	B	B	習熟度別指導や少人数指導に加え、コミュニケーションの充実を図った。また、個々の生徒状況に対応した。	様々な生徒がいる中で、個々の実態に応じた指導を実施するため、今後も研修を重ねてよりよいものとしてほしい。	生徒の多様化にともない、授業の全体指導の中に、一人一人の到達度に応じた「みとり」を充実させる。パフォーマンス評価を取り入れ、教師間で情報を共有し、指導や評価にいかしたい。
		⑥ 多様な進路に対応した学習が役立っていると評価する生徒が70%以上である。	B	B	B	進学希望者には、模擬試験の受験を行った。就職希望者には、普段の基本的な生活習慣の維持を徹底した。	地域を支えていく生徒の育成に向け、進学就職にかかわらず生きる力を身につけさせてほしい。保護者との情報交換や連携も重要である。	将来に向け、学力をつけることの必要性を引き続き生徒に伝えていく。PTA活動や三者面談を通して保護者へ現状の理解を促がしていく。
	4 生徒は確かな学力を身につけていますか。	⑦ 授業に真面目に取り組んでいると自己評価している生徒が80%以上である。	B	B	B	教師間で連携し、授業規律の確保を生徒に呼びかけここ数年維持できている。概ね授業態度は良好であった。	生徒が興味を持つような授業形態の工夫や規律の確保により、学力をより確かなものとして身につけられると思う。継続した取組に期待する。	授業のあいさつ「分離礼」の励行や授業中のマナー違反を許さない体制を引き続き維持する。今後も授業規律の確保に努める。
		⑧ 学力の定着を図る指導を充実させ、学力が向上したと自己評価している生徒が70%以上である。	B	B	B	全体授業では補いきれない学習の遅れや授業内容以外の学習を行うため、放課後等の個別指導の重要性は増しており、教科・学年で協力して取り組んだ。	基礎的な指導を重視しつつ、少人数の利点を生かし個々の生徒に必要な支援の継続実施を期待する。	個々に応じた指導・助言に力を入れる。その際、カウンセラー等から助言をもらい、その手法を取り入れるなど、さらに工夫をしたい。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑨ 生徒とのコミュニケーションを図り、学校生活等の実態を把握するため、年3回以上の面談指導を行い、面談が役立ったと感じている生徒が70%以上である。	B	B	B	面談週間に限らず、学校生活全ての場面で教師からの声掛けを実践するようにし、全職員で不安を抱える生徒への対応に努めた。その中で、情報の共有化を図るとともに、スクールカウンセラーや外部機関との連携を密にとるよう心掛けた。	学校の取組はすばらしい。スポット面談や声掛け等、生徒とのコミュニケーション機会を増やしてほしい。また、いつでも生徒や保護者との面談ができる体制を維持してほしい。	面談週間に限らない、全職員による学校生活全ての場面での声掛けを継続して実施していく。次年度はさらに全職員のアンテナを高くして取り組めるよう意識の向上を図る。スクールカウンセラーや外部機関との連携をさらに密にし、研修等も実施していく。
		⑩ 部活動に加入し、継続的に活動している生徒が50%以上である。	B	B	B	設置する部活の精選、活動内容の充実に取り組んだ。生徒の充実感が得られる部活動づくりに励んだ。	難しい実態があると思うが、多くの生徒が愛好会活動も含め、部活動の楽しさや充実感を体験して欲しい。	生徒の活動意欲が向上できる部活動等の設置について、研究し取り組む。設置してある部活動は、生徒にとって魅力あふれる活動となるような指導方

Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑪ スマホの使い方や交通安全、健康に関する講話等が役立ったと評価する生徒が70%以上である。	B	B	B	実生活での具体例を盛り込んだ講演会や実体験を通じた学習活動を目標に企画・実施した。また、GCH成果発表会では、学校保健委員会の報告として感染症について全校生徒に発表した。	学校の取組が成果として現れている。発達段階に応じた健康・安全教育を今後も適切に指導してほしい。	学生生活および将来の生活の中で生かせる知識・技能の習得を目指し、取組内容の改善を図りたい。また、学校保健委員会では、生徒が自立的に活動できるように指導していきたい。
		⑫ 生徒の欠席・遅刻を減らし、欠席率5%以下、遅刻率は3%以下である。	B	B	B	遅刻指導を実施していく中で、改善が見られる生徒が増えてきた。長期欠席する生徒には保護者との連絡を密にとり、連携を深めるとともに、外部機関とも連携を図り対応した。	年々良化傾向が見られ、学校の地道な努力が成果として現れている。長期欠席する生徒に対しては、保護者との連携をさらに密にしてほしい。	遅刻指導は継続して実施していく。長期欠席する生徒には保護者との連携をさらに密にしていくとともに、外部機関との相談体制を強化して早期に対応できるようにしていく。
		⑬ 本校で定めた服装・頭髪に関するルールを遵守していると考えている生徒が70%以上である。	A	A	A	多くの生徒が校内ルールを遵守して学校生活を送れるようになってきた。進路との関連を強く意識づけ、生徒が自主的に規範意識を向上できるよう取り組んだ。	生徒指導面でのルール遵守の指導が行き届いている。生徒だけでなく保護者の理解や協力により、さらに高い目標を目指してほしい。	服装・頭髪指導の充実、授業規律の徹底、日頃の声掛けなどを根気強く行い、ルール遵守の徹底に取り組み続ける。進路と関連づけた、自主的な規範意識向上にもさらに積極的に取り組んでいく。
	7 生徒主体のいじめ防止活動に積極的に取り組んでいますか。	⑭ 仲間を受容し、いじめを絶対許さない雰囲気づくりに努め、学校はいじめの防止や早期発見に向けて積極的に取り組んでいると感じている生徒が85%以上である。	B	B	B	アンケートや面談の機会に限らず、生徒からの申し出や情報に迅速に対応できるよう、いじめ対策委員会を中心として組織的に取り組んだ。また、生徒会による、年間を通じた「あいさつ運動」や、いじめフォーラムへの参加、全校生徒へのフィードバック、講演会の各学期実施などを行った。	目標を達成できないまでも、取組への成果は出ていると思われる。引き続きいじめ根絶に向けて学校全体で取り組んでほしい。	アンケートや面談等による情報集約のさらなる徹底、より綿密な職員間の情報共有を行い、学校全体で早期発見、早期解決に努めていく。また、生徒が主体となっていじめ防止に取り組む活動を増やすとともに、外部機関との連携を一層深め、講演会の内容、時期を検討して実施し、いじめを許さない心を育てていく。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	8 計画的な指導を行っていますか。	⑮ 進路ファイルを活用した取組に意欲的な生徒が70%以上である。	B	B	B	「進路ファイル」に対する取組みはよく、インターンシップにも前向きに取り組んでいた。	進路指導が充実していることがうかがえる。今後も、より発展・充実を目指して取り組んでほしい。	「進路ファイル」について職員にアンケートをとり、より良いものへ改善していく。
		⑯ 上級学校見学・進路ガイダンス・インターンシップ(2年生)・小論文指導などの進路関連行事に意欲的に取り組んでいる生徒が70%以上である。	B	B	B	「進路ファイル」を活用することにより、進路行事の記録を保管することができ、次年度への進路指導に生かしていける。進路の手引きを家庭配布し、情報を共有できるようにした。	生徒の評価に対して保護者の評価が低い。進路の手引を家庭にも配付するなど、情報を家庭と共有できるように工夫してほしい。	保護者の費用の負担が倍になったが、「進路のてびき」を生徒用と家庭用の2冊にしたことにより、家庭での閲覧や担任の進路指導がより円滑になるようにしていきたい。
	9 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑰ 「将来の職業」や「卒業後の進路」について考え、進路実現に向けて前向きに取り組んでいる生徒が70%以上である。	B	B	B	生徒の進路実現に向けて、学年と協力し、キャリア教育の観点から、卒業後も進路に対する意識をつくっていけるような生徒に対する指導をおこなってきた。	進路目標の実現は最大の目標であるので、進路意識の高まりはとても重要である。自主自立の心で将来へと進路を歩めるように、指導の維持を希望する。	日常の中で、卒業後のことを考えた行動がとれるように、学年、教務、生徒指導とも協力して、生徒の進路指導をしていく。
		⑱ 生徒の卒業後の進路について一度以上の話し合いを持っている家庭が70%以上である。	B	B	B	「進路ファイル」を活用することで家庭での進路の話し合いの内容を担当が把握しやすくなったと思える。	アンケートの時期が影響していると思われるが、家庭の意識の高まりも見られ成果が出ている。年間を通して継続した指導を期待する。	月に最低1回は学年に「進路ファイル」に取り組む時間を確保してもらう。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑲ 学校の教育活動を理解してもらうため、ウェブページの更新を適宜行い、地域に対する広報活動を定期的に行っている。	A	A	A	地域への下高通信の回覧、HPの随時更新等により、地域への広報活動を定期的に行うことができた。	ウェブページが随時更新され見る機会が増えた。「下高通信」が回覧されたことで、地域からの認識も高まった。情報発信の機会を増やすことで地域の関心も高まると思われる。今後の継続も期待する。	発信する内容を検討し、本校の特色やメッセージが、より伝わるような魅力あるウェブページを更新していく。
		⑳ PTA関係行事への保護者の参加が40%以上である。	A	A	A	役員の意識の高さに支えられ、各行事を企画・運営できた。行事の見直しを行ったが、PTA関係行事への参加は昨年とほぼ同様であった。	今後もPTA関係行事を含めて、魅力ある学校作りに取り組んでほしい。	行事の精選が適切であったかを検証していく。早期(1年次)に保護者に働きかけ、学校と保護者の関係の強化に努める。